全世界の人々に衝撃を与えた
「未知との遭遇」に
今、新しい特撮と再編集。

あなたは、主人公ロイ・ニアリーと共に
遂に、あの巨大な
マザーシップの中に入る。

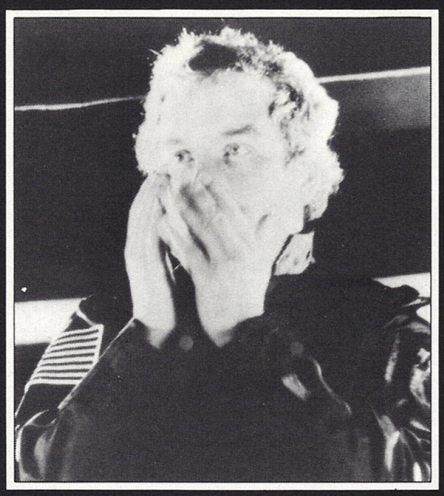
未知との遭遇
特別編

THE SPECIAL EDITION
CLOSE ENCOUNTERS OF THE THIRD KIND

コロムビア映画／ＥＭＩ提供
フィリップス・プロダクション／スティーブン・スピルバーグ作品
リチャード・ドレイファス／テリー・ガー
メリンダ・ディロン／フランソワ・トリュフォー
音楽ジョン・ウィリアムズ／視覚効果ダグラス・トランブル
撮影監督ビルモス・ジグモンド
製作ジュリア・フィリップス＆マイケル・フィリップス
脚本・監督スティーブン・スピルバーグ
サントラ盤アリスタレコード DOLBY STEREO IN SELECTED THEATRES Panavision® ©1980

©1980 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.

Columbia Pictures



未知との遭遇
特別編

THE SPECIAL EDITION

CLOSE ENCOUNTERS OF THE THIRD KIND

©1980 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.

Columbia Pictures

＜かいせつ＞

1976年12月31日に撮影が開始されて以来、翌年11月16日全米での最初の公開まで、まったく秘密のベールに包まれていた「未知との遭遇」。そして、全世界で1億以上の人びとがまったく新しい衝撃を体験することになったのである。すべてを秘密にしたのは、その体験をより一層効果的に味わってもらうためにほかならなかった。各国の劇場は、十重二十重の観客に取りかこまれて、今日までに、この素晴らしい映画は、日本円にして320億を稼いだ。当時、コロムビア映画の株価が3倍にはねあがったというのも肯けようというもの。

フェニックスの高校生だった16歳の頃、空中に現われる不思議な光を探究する科学者を主人公にした「火の光」"Firelight"という2時間半の8ミリ映画を製作したスティーブン・スピルバーグ監督。彼は少年の時から、ＵＦＯに強い関心を抱いていた。

「未知との遭遇」について、プロデューサーのジュリア・フィリップスはこう語っている。〝この映画は、単にＵＦＯと、ＵＦＯ問題に関する映画ではありません。これは、スティーブンのフィーリングなのです。宇宙には何かがいるのです。そのことに関して、そろそろ教えてもらってもいい頃ではないでしょうか。そして、わたしたちが最も共感している点は、彼が人間の映画をつくるということ。観客が思い入れできる人間の映画ということです。この映画での主人公ロイも、どこにでもいる男で、あなたの友人かも知れないし、ひょっとしたら、あなた自身かもしれない、そんな人物です〟。

スピルバーグは「未知との遭遇」をつくり、人びとを驚嘆させたけれど、彼にいわせると、160ページのシナリオのうち135ページしかつくっていないという。いろいろな事情があるにせよ、監督としては、160ページを完成させたいと思うのは当然のこと。彼はコロムビア映画と話合い〝ロイはあのあと巨大なマザーシップの中で何を見たのか？どうなったのか？〟に焦点を合わせて、オリジナルから一歩進めたものをつくることに合意した。

この試みはまさに画期的で、誰もやったことがない。〝誰だって映画監督なら、一本完成させたあと、あそこはこうすべきだった、あそこはああした方がよかった、と思うものだよ。でも、いったん公開してしまえば、会社はそれに手直しなどさせてはくれない。ところがこんどはうまく理解しあえたんだよ〟とスピルバーグはいう。

とにかく、彼はそのためにデス・バレーとバーバンク・スタジオに新たにカメラを据え、特撮部分を中心に撮影を再開した。そして、未公開のフィルムを慎重に選び、オリジナルから不要な部分を除き、再編集して「未知との遭遇＜特別編＞」を完成させたのである。

9月20日(土)より話題のロードショー

日比谷 有楽座 (591) 5351

歌舞伎町・コマ劇場となり 新宿プラザ劇場 (200) 9141

道玄坂 渋谷東宝 (461) 2268

●特別鑑賞券￥1100(一般￥1400・学生￥1200の処)劇場窓口にて発売中！